

数は増加傾向にあります。

また、同期間中、西部消防局管内では、心肺停止状態で搬送した患者は218人。そのうち、救急救命士が到着するまでに、何らかの応急手当を受けた人は88人(40.4%)で、1か月後の生存者は8人(9.1%)。応急処置を受けたなかった人の生存率3.8%の3倍にもなります。

人が心肺停止になった場合、脳は約3分から4分間で重大な障害を受けると言われており、心肺停止に対する蘇生法は1分1秒でも早く開始する

必要があります。

西部消防局管内では、119番通報を受けてから、救急車が現場に到着するまで平均7分21秒(地域によって差があります)。救急車が到着するまでの間、その場に居合わせた人が応急手当をすばやくできるかどうかで、その人の生死を左右するといっても過言ではありません。

応急手当は「命を救う第一歩」。正しい知識と技術を持ち、あわてずに適切な対処を行うことができるよう、身につけておくことが大切です。

冷静になり 状況判断すること



江府消防署救急係主幹
黒見弘幸さん

応急手当が必要となる現場は、いつも安全な場所とは限りません。まず冷静になって周囲の状況を確認し、自身の安全を確保してください(2次災害を防ぐ)。応急手当は、知っているのと知らないのとでは、いざというときに大きな差がでます。また、実際に自分でやってみないと感覚がつかめません。皆さん1度は講習を受けておきましょう。

いざ、というときの応急処置、心肺蘇生法などの救命講習を希望する人(団体・地域)は江府消防署へ相談してください。電話 77 2001

呼吸を確認



4 気道を確認したら、胸部や腹部の動きを見ながら耳を傷病者の鼻や口に近づけて呼吸があるかどうか約5秒で確認します(気道確保から呼吸確認まで10秒以内)。

人工呼吸



5 呼吸していない場合は、気道確保したまま鼻をつまみ、口を大きく開いて傷病者の口を覆い胸が軽く膨らむ程度息を吹き込みます。

空気を送る



6 空気を送り込むリズムは、成人が5秒に1回、小児・乳児が3秒に1回。2回繰り返した後、循環サイン(呼吸・せき・体動)があるかどうか10秒以内に調べます。

心臓マッサージ



7 循環サインがなければ、傷病者のろつ骨下縁に沿って人差し指が中央の骨に当たるまで移動させ、その人差し指を胸骨上に置き、圧迫位置を決めます。

圧迫位置の確認



8 人差し指の置かれた胸骨の頭側の部分が圧迫位置です。手のひらのつけ根を置き傷病者の体に対して垂直に両手で圧迫します。

マッサージする



9 圧迫は3・5から5センチ程度で、速さは1分間に約100回。心臓マッサージ15回に対して人工呼吸が2回の割合。約1分後(4サイクル)に循環サインを確認する。